

until 節の動詞句について

林 高宣*

Takanori HAYASHI

Verbs in *Until*-Clauses

【キーワード：アスペクト，時制，内在的終結点，基準時】

0. はじめに

until 節における動詞句は完結的 (perfective) でなければならぬ (Kittredge 1969: 44-49)、あるいは瞬時的なものに限られる (今井・中島 1978: 392-393) とされてきたが、実際にはこれに反して状態動詞や進行形が生じる例がいくつも見られる (出水 2001、内木場 2004)。出水 (2002)、内木場 (2004) は、状態動詞に起動相的解釈を与えることによって until 節の動詞句が瞬時的なものでなければならぬことを説明している。また、until 節における進行形に対し、出水 (2002) は [+bounded] という特徴を仮定することにより、内木場 (2004) は until 節の動詞を 3 種類に分類することにより、衣笠 (2005) は until 節に 2 つの用法を仮定することにより、それぞれ説明を試みている。その議論の過程において当初の理論が修正され、新たな指摘が加えられているが、これらの主張にはいくつか不明確なまま残されている点があると思われる。本稿では、until 節のアスペクト制約、until 節における起動相的解釈、until 節に進行形が許される条件について考察していきたい。

1. 出水 (2002)

まず、until 節に現われることが可能な動詞句の特徴を説明するものとして出水 (2002) にふれておきたい。出水は、until 節の時間的機能を説明するには完結性 (telicity) に加え境界性 (boundedness) という概念が必要であるという Depraetere (1995) の主張を採用している。出水 (2002: 66) は「until 節は主節が表わす unbounded な事象の時間的に後方の側に時間的境界 (temporal boundary) を画定する、すなわち主節の事象の境界化 (bounding) をするということである。」と述べ、until 節の機能を次のように定義している。

(1) a. until 節内の動詞句は bounded でなければならない。

b. until 節の機能は、until 節内の bounded な事象がもつ時間的境界を、主節の unbounded な事象

へと写像することで、主節の事象を境界化することである。 (出水 2002: 67)

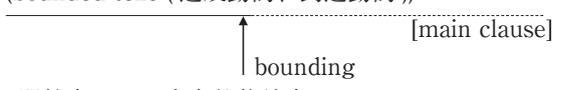
until 節が (1) に従って主節の事象を境界化する場合、大別して 4 タイプの動詞句が until 節に想定される。

まず、達成動詞 (accomplishment)、到達動詞 (achievement) である。これらは同一グループに含まれ、[+telic] かつ [+bounded] という特徴を持つ。

(2) a. Alex danced until the music stopped. (Kittredge 1969: 45)

b. We waited until Mark washed the dishes. (Heinämäki 1978: 81)

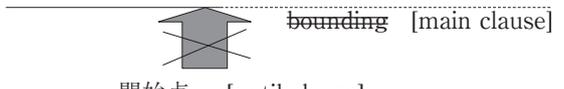
動詞句が [+telic] という特徴を有するため until 節の事象に内在的終結点が存在し、これが時間的境界としての機能を果たしている。出水は、これらの動詞句における主節と until 節の事象の関係を次のように示している。

(3) (bounded telic (達成動詞、到達動詞))

 (開始点) 内在的終結点 [until clause]

本来、非境界的 (unbounded) であった主節の事象は until 節の境界化まで実現されて太線で表わされており、矢印以降の点線は until 節による境界化がなければ実現されていた部分を表わしている。

次に、行為動詞 (activity) の場合であるが、これらの動詞は [-bounded] かつ [-telic] という特徴を有している。

(4) *He stayed here until the guest waited. (今井・中島 1978: 393)

(5) *(unbounded atelic (行為動詞))

 開始点[until clause]

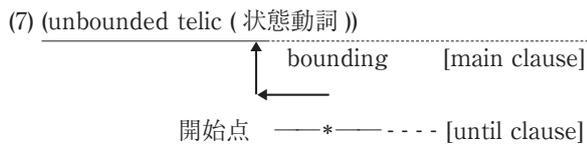
* 島根大学教育学部言語文化教育講座

境界化という機能を果たすためには、until 節の動詞句が時間的境界を示す必要があるが、行為動詞が表わす事象は時間的に幅を持っており、境界という線的なものとしては機能できない。その結果、行為動詞は until 節に現われることができない。

さらに、until 節に [-bounded] [-telic] である状態動詞が生じた場合、起動相的解釈が適用されると出水は述べている。起動相的解釈とは、until 節に現われた状態動詞をアスペクト的に再解釈して到達動詞と捉えるものである。

- (6) John soaked the spaghetti until it was soft.
(Kittredge 1969: 39)

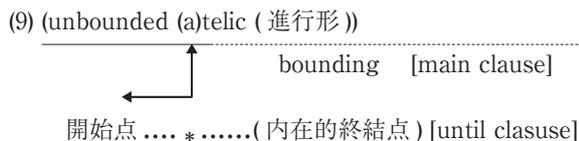
状態動詞は均質な事態を表わしているが、出水によれば境界化がなされる場合、境界として機能するのは均質な状態の時間的に最も初期の部分である。つまり、(6) においてはスパゲティーがやわらかくなった最初の段階が境界化の機能を持つことになり、主節は [-bounded] [+telic] である until 節によって境界化される。



最後は、until 節に進行形が現われる例である。

- (8) a. And it was not until Margo Posner was being led away that Tyler realized what it was about her that reminded him so much of Kendall.
(出水 2001: 152)
b. "I waited until it was raining, and then hit a bank."
(S. Sheldon, *Rage of Angels*)

出水によれば、進行形では事象の進行過程における 1 時点が主節を境界化する基準として機能している。つまり、進行形は動画から取り出した 1 コマの静止画として主節の事象を境界化する機能を果たしている (出水 2002: 69)。



以上が until 節における動詞句に対する出水 (2002) の主な主張である。このような主張に対し、以下ではその分析の妥当性について検証し、いくつかの新たな提案を行う。

2. until 節の解釈における問題点

この節では、until 節に現われる動詞句に対する出水 (2001、2002、2003) の分析やその他の分析に対する問題点を指摘し、新たな提案への足がかりとしたい。

2.1. until 節のアスペクト制約

出水 (2001) によれば、until 節に現われる動詞句は [+telic] であるというアスペクト制約を満たさなければならない。しかし、状態動詞が表わす事象は [-telic] であるにも拘わらず、until 節に生起することができる。これを説明するため出水は起動相的解釈を採用している。また、実際に [-telic] である進行形が until 節に現われることも可能である。¹⁾

さらに、出水 (2002) では進行形を含む until 節に対する説明に妥当性を持たせるため、[+telic] という特性に代えて bounded という概念を導入している。

但し、ここで不明な点は、until 節の動詞句を [+bounded] でなければならないとしているが、until 節内の進行形がどういった点で境界的であるのか述べられていないことである。通常、進行形を用いた動詞句が境界的な事象を表わしているとは考えられない。

また、出水 (2002: 70) は [+telic] の代替案として [+bounded] であるという制約を示している。しかし、(3)(5)(7)(9) に見られるように [+telic] という動詞句のアスペクト表示が依然として与えられている。

さらに、出水は行為動詞を進行形と同じく非境界的であるとしている。行為動詞が until 節に生起不可能な理由は、その行為が時間的に幅を持っており、境界として機能できないからであり、一方進行形の場合、進行中の事態の 1 時点が境界として機能し、until 節に生起可能である。しかし、この説明においても非境界的である進行形がいかにして境界として機能し得るか不明のままである。²⁾

2.2. until 節の説明に対する一貫性の欠如

さらに、until 節の動詞句に対する出水の分析は動詞句ごとに個別の説明を与えるものであり、一貫性に欠ける。以下では、この点について見てみたい。

Smith (1997:20) は、3 つの特徴から Vendler (1967) による動詞の分類を以下のように再分析している。

(10) Temporal features of the situation types

Situations	Static	Durative	Telic
State	[+]	[+]	[-]
Activity	[-]	[+]	[-]
Accomplishment	[-]	[+]	[+]
Semelfactive	[-]	[-]	[-]
Achievement	[-]	[-]	[+]

出水 (2001:143) は、Smith (1997:19) に従って [+telic] であるとは事態が自然な終結点 (natural final point)

を持つことであるとし、until 節における動詞句のアスペクトは [+telic] と [-durative] という 2 つの素性から捉えられると予測し、最終的には [+telic] のみが until 節の動詞に課せられる制約であるとする。しかし、先にも述べたように出水 (2001) は until 節に [-telic] な動詞も生起することがあると述べ、このような until 節における動詞を説明するため、起動相的解釈を用いている。

- (11) Claire kept telling funny stories until Paul was in a good mood. (Heinämäki 1978: 81)

出水 (2001: 147) は、「Kittredge や荒木ほかは、このような場合の be 動詞は become, come to be, get to be の意味で用いられると述べ、be を become で置き換えたパラフレーズを提示している。これは、本来非完結的な状態を表わす be 動詞が、点として捉えられる完結的な事態へと再解釈されているということである。」と述べ、(11) に対して起動相的解釈が適用されると考えている。

さらに、until 節に位置・姿勢を表わす動詞句を伴い、主節が表わす位置・姿勢変化の到達点を表わす例がある。

- (12) a. He crossed the pitch-dark room very slowly, feeling the air in front of him at each step, until he was beside the bed.
(K. Follett, *Eye of the Needle*)
b. He burst out of the column of smoke, coughing, and stumbled across the cement until he was directly below the plane's doorway and the First Lady.
(I. Wallace, *The Second Lady*)

これらの例では until 節に状態動詞が現われており、出水 (2003: 92) は「(19a) (=12a) の until 節は「ベッドの脇にいる」という状態が始まった、すなわち到達されたときまで主節の事象が続いたことを表わしているし、(19b) (=12b) の until 節も「飛行機のドアとファースト・レディの真下にいる」という状態が始まった、つまりその位置まで行ったときまでの主節の事象の継続を示している。」と述べ、ここでも起動相的解釈を適用している。

しかし、次の例をあげ、

- (13) Matt passed himself through the window, one limb at a time. Moving slowly, he inched his entire frame through the opening until he was standing in the room.
(D. Gram, *The Trigger Effect*)
(14) Matt passed himself through the window, one limb at a time. Moving slowly, he inched his entire frame through the opening until he stood in the room. (出水 2003: 92)

「(20) (21) (=13) (14) が、(19) (=12) 同様に主節の表わす位置・姿勢変化の到達点、すなわちある位置・姿勢であるという新たな状態が始まったことを表わしているとすれば、前節で見た出水 (2002) の説明にとって非常に問題となる。(20) では進行形であるにもかかわらず、状態動詞同様に起動相的解釈が適用されていることになるし、(21) の場合、Activity であるはずの stand が until 節内に生起しているからである (出水 2003: 92-93)。」と述べている。

これを解決するため、stand は主語の意志によるコントロールの点から行為動詞とみなされてきたという点は認めつつ、時間的性質に関しては状態動詞と同じであると考え、(13) に対しては最終的に until 節に現われる進行形と同様の機能を果たすとみなし、(14) に対しては起動相的解釈がなされていると結論している。

以上のように、出水による until 節に生起する動詞句の解釈は、その動詞の特性ごとに個別の説明を与えなければならない、一貫性に欠ける。

3. until 節における動詞句

出水 (2002) は until 節の機能を (1b) のように規定し、内木場 (2004: 102) も until 節は主節を時間的に bounding する機能を持つと述べている。但し、until 節の機能をこのように規定するだけでは進行形の生起が可能であったり、行為動詞の生起が不可能であることの説明にはなっていない。ここでは主節の事態を時間的に bounding するという until 節の機能と両立可能な動詞句の特徴について考察する。

3.1. until 節の機能

主節事態の境界化とは until の側からの規定であるが、そこに生起する動詞句にはその規定を受け入れ得る特徴が要求される。³⁾ そもそも「境界化 (bounding)」とは、事態を特定の時間や段階で区切ることであるため、境界化が可能な事態とは①自らが境界を有する、あるいは②ある特定の場合に境界化を受け入れる要素を持ったものでなければならない。

達成動詞や到達動詞は動詞アスペクトの点で内在的終結点を持っている。当然のことながら、このアスペクトが境界化と適合し、until 節に問題なく生起可能になると考えられる。出水 (2001) によって指摘された until 節内の動詞句のアスペクト制約は、この点で境界化という機能に適合するのである。

ここで、until 節に生起する動詞句に課される意味論的制約を探る出発点として、最も until 節に生起しやすいと思われる到達動詞、達成動詞について考えてみたい。

Kittredge (1969) では、until 節の動詞句は完結的 (perfective) でなければならないとされている。これに基づいて出水 (2001: 143-144) では、until 節における動詞句のアスペクトを考察し、until 節には (15) のような [+telic] [-durative] な到達動詞、(16) のような [+telic]

[+durative] な達成動詞が現われると述べている。

- (15) Ellery watched his drooping shoulders until they vanished.

(E. Queen, *The Chinese Orange Mystery*)

- (16) a. “Who gossiped such tripe? You’d better tell me. I’m not going to let you sleep until you tell me.” (L. Wallace, *The Guest of Honor*)
 b. Doc Brown immediately started for the vehicle. Indicating that Marty should wait until he examined it, he gently touched the door handle. (G. Gipe, *Back to the Future*)

このように境界化が行われるためには動詞句の表わす事態に内在的終結点があることが必要な条件であると言える。但し、動詞句のアスペクトのみにとらわれていては最終的な境界化の機能を明確にすることはできない。アスペクトとは、動詞の内部構造における時間的特徴であり、動詞句に内在的なものである。しかし、動詞句がそれを何らかの形で実現しなければ実際の終結点は発生しない。

この終結点を until 節の中に実際に発生させるのは時制であると考えられる。出水と内木場はともに until 節の機能として主節の事態を境界化することをあげているが、その境界化を果たす until 節には時制が与えられている。(15) (16) においても until 節における動詞句のアスペクトを考察するだけでは、潜在的終結点の存在に気づくことはあっても時間的境界としての終結点の実現されているとは言い難い。

それではいかにして (15) (16) に終結点の実現されることになるのであろうか。until 節の動詞句における時間的終結点として機能しているのは基準時であると考えられる。(15) のような到達動詞の場合、動詞句の表わす事態は一瞬で成立するため出来事時と基準時は同時であると考えてよい。また、達成動詞の場合も終結点として機能しているのはプロセスの終了時点であると考えられる。

- (17) John built a cabin last summer. (Smith 1997: 29)

この場合、基準時を表わすのは last summer であると考えられるが、その期間全体が基準時として機能しているわけではなく、家を建てることが完了した時点が last summer における 1 時点であると解釈される。

以上の到達動詞と達成動詞における観察から結論されるのは、これらの動詞句が境界として機能する場合、動詞アスペクトによってもたらされる事態の終結点が基準時によってマークされているということである。これは、事態の終結点と基準時が時間軸上で重なっていることであると言ってよいかもしれない。ここから until 節内に現われる動詞句に対して次の意味論的制約が仮定される。

- (18) until 節に生起可能な動詞句の意味論的制約

until 節内に生起可能な動詞句は、アスペクトによってもたらされる事態の終結点が基準時によってマークされなければならない。

4. until 節における動詞句の時間的特徴

出水 (2002) は until 節の機能を (1b) のように規定し、内木場 (2004: 102) も until 節は主節を時間的に bounding する機能を持つと述べている。但し、until 節の機能をこのように規定するだけでは進行形の生起が可能であったり、行為動詞の生起が不可能であることの説明にはなっていない。本稿では、until 節に生起可能な動詞句の意味論的制約を (18) のように規定したが、ここではその規定に従う進行形の特徴について観察する。

3 節において until 節に生起可能な動詞句に課される意味論的制約について規定したが、達成動詞や到達動詞は動詞アスペクトによって内在的終結点を与えられており、これが時制によって特定の時として指定される。結果的に、これらの動詞句は until 節に問題なく生起可能となる。出水 (2001) によって指摘された until 節内の動詞アスペクトはやはり無視することができない。現実には多くの例において until 節の動詞句が [+telic] というアスペクトを有している事実は、これが生起可能な条件の 1 つであることを示している。

さらに、動詞アスペクトの点では内在的終結点を持たない行為動詞であっても、ゴールを付加することによって walk into the store などのように動詞句全体として終結点を持つようになる。

但し、終結点を与えられるだけでは until 節内の動詞句として機能することはできない。次の例に見られるように事態達成までの時間が表わされている場合であっても until 節での生起は不可能となる。

- (19) *Mike was there until Jane waited for two hours.

ここで必要となるのが先に規定した基準時によってマークされる時点である。

これまで until 節における進行形については生起可否のみが議論される傾向があり、最終的に生起可能であると結論された。しかし、実際にはすべての進行形が until 節に生起可能なわけではない。到達動詞、達成動詞の終結点が時間的境界として機能したように、進行形においても時間的境界として機能する基準時が必要である。そして、先の到達動詞、達成動詞の例から判断して、瞬時的な基準時しか until 節に現われることができないと予測される。同じ進行形であっても until 節に生起可能なものは時制としての構造が他のものとは異なっている。

- (20) John was sleeping when I arrived.

(Declerck 1991: 273)

(20) では主節によって表わされる事態には時間的幅があるが、when 節によって表わされる事態が瞬時的であるため、結果的に副詞節と同時である主節事態も点的なものとならざるを得ない。つまり、進行相というアスペクトによって継続的な事態について言及しているはずの過去進行形ではあるが、基準時によって実際にはその中の1時点についてしか述べていないのである。そのため、進行形は境界化という機能を有する until 節に現われることが可能となる。

実際に基準時が瞬時的でない進行形は終結点を内在しているにもかかわらず until 節に現われることができないと思われる。

- (21) *Mary waited until Bill was reading a book between three o'clock and four.

5. 検証

ここでは until 節に生起可能な動詞句が表わしている事態の特徴について先行研究を踏まえ、これまでの本稿での議論を検証してみたい。

5.1. 内木場 (2004)

内木場は until 節内の進行形に現われる動詞を3つに分類している。

まず、行為動詞であり、行為が開始された後の継続状態全体がひとまとまりにくくられていると内木場 (2004: 109) は述べている。

- (22) a. She cooked dinner for Ken. He waited until they were having dessert before he brought up the subject. (S. Sheldon, *Rage of Angel*)
 b. "You used a sawed-off shotgun under a raincoat?" "That's right. I waited until it was raining, and then hit the bank."
 (S. Sheldon, *Rage of Angels*)
 c. It was not until he was climbing the stairs in front of her that Tug realized suddenly, cold and hard, why her eyes had flickered before she answered. (BNC)
 d. It wasn't until she was stumbling from the room that she saw her mother. (BNC)

この行為動詞の進行形は出水において「状況変化の途中の段階」とされるものであり、出水 (2002) が主張するように動詞の表わす事態の最中の1時点が捉えられている。

次に、until 節に進行形で現われるものに到達動詞がある。これらの動詞が表わす事態は行為動詞と異なって時間的幅を持たないため、たとえ進行形によって表わされるとしても事態の最中が捉えられるわけではなく、事態に至る前段階が捉えられている。

- (23) But those were the first and last meteorites found until the six week season was ending and the party was preparing to leave Antarctica. (BNC)

最後に位置変化後の結果状態を表わす動詞がある。lie, rest, sit, stand, face, cover などの動詞によって表わされる事態は発生に関して瞬時的であるため、進行形によって表わされているのは位置変化後の結果状態である。

- (24) a. He leaned forward until his head was lying against her shoulder.
 b. He rolled them slowly sideway until his body was covering hers. (BNC)

このように、同じ進行形が用いられていても、それらが表わす事態は動詞そのものが表わす意味によって実現される事態の前、最中、後というように3タイプに区別されるというのが内木場の説明である。

しかし、3.1. 節で見たように until 節に生起する動詞句の特徴は終結点 (あるいは開始点) が基準時によってマークされるというものであり、このように3つに分類するだけでは until 節に現われる進行形を説明したことにはならない。until 節における単純形と進行形の違いは、前者では終結点と基準時が時間軸上で重なる無標のケースであるのに対し、後者では両者が時間的にずれている有標のケースであるという点である。

until 節への生起に関係するのは終結点 (あるいは開始点) と基準時の2点であり、until 節に生起する進行形を分類するとしても、それは開始点以降の事態を表わすものと終結点以前の事態を表わすものという2タイプでよい。

5.2. 衣笠 (2005)

衣笠 (2005) によれば、until 節の進行形には2つの用法がある。

まず、「(出来事が起こる) 場面設定を示す用法」であり、これは (25) から (28) に見られるように realize, remember, forget, see, find, learn などの動詞とともに用いられることが多い。

- (25) a. She hadn't realized until she was bumping along the road away from the dock that she'd been shaking like an aspen leaf.
 b. After that I forgot about seeing Tavett and didn't remember until I was leaving the building. (BNC)
 (26) We saw each other a lot, and we were close, but we didn't live together actually until he was dying. I took three months off work and took care of him. (D. Steel, *The Ranch*)
 (27) a. I'd forgotten just how important that was

until I was leaving.

b. I didn't notice it until I was leaving.

(Cobuilddirect)

(28) a. Everyone wants Jimmy to win this tournament and I admit I felt sorry for him towards the end of our match. It wasn't until I was clearing up in the last frame that it really hit me. I felt a bit sick.

b. It wasn't until Joni was going through therapy with Dr Britten's assistant, Rana, that she learned the whole story of Vicky's life.

(Cobuilddirect)

この用法に分類される until 節は、forget を除いて否定辞を伴う主節と共起するという特徴が見られる。forget を含む例は否定辞 not を含んではいないが、これも解釈の上では not see, not realize と理解され、同様の内容を表わしている。

衣笠によれば、進行形を含む until 節のもう 1 つの用法は「行為の進み具合を示す until 節」であり、主節の動きの 1 部を密に描写するというものである。

(29) a. They made love until the sheet was soaking wet, ...

b. Davichand Rana crossed the room until he was facing Chet.

c. Then I saw his ability. He controlled the car until it was pointing forwards again.

(Cobuilddirect)

この場合、主節は単純過去、until 節は進行形をとり、主節が行為を表わし、until 節がその行為に伴う 1 局面を示すと衣笠は述べている。これについては、主節の事態によって引き起こされた結果を until 節が述べているとみなしてよいかもしい。

衣笠によれば、内木場が位置変化後の結果状態としたものもこのタイプに含まれる。

(30) He rolled them slowly sideways until his body was covering hers. (BNC)

(31) Sam waxed the floor until it was shining. (Heinämäki 1974: 84)

本稿では、このような衣笠の分析に対して 3 点ほど指摘したい。まず、衣笠による分類に代えて 5.1. で示唆した「終結点に至る前の状況を表わす用法」と「開始点以降の状況を表わす用法」という分類を採用したい。内木場 (2004: 106-110) は、行為動詞の進行形と到達動詞の進行形を区別するが、衣笠はこの分類に意味はないとし、両者を同じ用法とみなしている。しかし、(25a) を除く until 節の進行形がすべて到達点に至る前の状況を表わしているのに対し、(25a) のみが行為開始以降の状

況を表わしている。衣笠が主張するように進行形を含む until 節を 3 つに分類する必要はないが、until 節における進行形は時間軸上の 1 点に到達する前の状況に到達した後の状況のどちらか一方を表わしており、(25a) は衣笠による「行為の進み具合を示す用法」に含まれるべきであろう。この用法の until 節の進行形はすべて開始点以降の状況について述べている。

第 2 に、衣笠は「場面設定を示す用法」について、これが述べる場面は「思い出したり気づいたりすべき最後のぎりぎりの場面 (衣笠 2005: 100-101)」であると説明し、「行為の進み具合を示す用法」について「行為の最終局面を示している (衣笠 2005: 103)」と述べている。until 節の働きが主節事態を境界化することであるとすれば、until 節の表わす事態が主節事態の最終局面であるという説明は当然である。進行形を伴う until 節の状況の 1 時点が基準時によってマークされ、この基準時が主節事態を境界化するのである。主節を境界化するという until 節とその機能を具体的に果たす基準時によって「最終局面」という解釈がなされる。「行為の進み具合を示す用法」について先に述べたように、until 節の事態が主節事態によって引き起こされた結果であるという主張も until 節内の進行形が表わしている基準時が主節事態を境界化すると考えることによって説明される。

最後に注意すべき点は、これらの構文に対して衣笠が「場面」「局面」という用語を用いていることである。事態に対する「場面」あるいは「局面」という捉え方は、すでに述べた「基準時によってマークされる時点」という説明に符合する。「場面」とは、事態が始まってから終了するまでの全段階ではなく、全体を 1 つの事態として捉えたものでもない。それは事態が始まってから終了するまでのあいだにおける 1 時点である。つまり、これらの until 節はいずれも基準時によってマークされる、進行中の事態の 1 場面を描写している。until 節が主節事態を境界化するためには、時間軸上に境界として働く点が必要であり、進行中の 1 時点をマークする基準時がこの用法においてその機能を果たしているのである。

5.3. 起動相的解釈

Heinämäki (1978: 81) による、until 節にはあらゆるタイプの動詞が生起するという主張に始まり、Smith (1997), Rappaport Hovav and Levin (1998) によるアスペクト再解釈に従って、出水は until 節における状態動詞に対して起動相的解釈を採用している。

(32) a. Continue in this direction until you see a sign. (OALD⁵)

b. "I don't like to involve you until I know for certain what the CIA will do."

(I. Wallace, *The Guest of Honor*)

この主張は動詞の意味を状態のみに限定し、そこから到達動詞の解釈が派生するという考え方に基づいている。

これらの例では主節の進行形が場面設定の役割を果たし、until 節の事態によって主節の事態が突発的に中断されることが述べられている。

但し、until 節の事態が主節の事態を中断させるほどの重要な要因であるか否かは文脈によって大きく変わってくると考えられる。また、(37)(38)においても until 節の事態によって主節の事態が中断されると考えることは至極当然であり、そのような解釈が許されないとは思われない。これらの主節に進行形が許されない理由は他にありと考えられる。この問題については稿を改めて検討したい。

6. おわりに

行為動詞でも開始点・終結点を加えれば（つまり、起動動詞化すれば）、until 節に現われることができる。普通に until 節に現われる到達動詞、達成動詞では終結点が動詞句に内在しており、時間的に境界を設定する機能を持つ until 節と動詞の特徴のあいだに衝突が生じない。つまり、事態の終結点と時制によって示される動詞句の基準時が時間軸上で一致している。

通常、両者は時間軸上で重なり合っており、until 節が示しているのは1時点であるかに考えられるが、until が接続詞として用いられる場合には基準時と動詞句に内在する終結点の2点の関係している。until 節の進行形は終結点と基準時が時間軸上でずれている有標のケースであると考えられる。

注

1) 当初、これについては「主節の表わす動作や状態が終結したとき、until 節の主語が自分の置かれている、ある動作が進行しているという状態を認識した」という特殊な解釈が可能な場合にのみ、until 内の進行形が許されると考えられる（出水 2001: 153）。と説明されている。

2) 内木場（2004: 102）が述べているように until 節は主節を時間的に bounding する機能を持つとだけ規定する方法もある。しかし、後で見るように動詞句のアスペクト制約は境界化という機能に関係しており無視することはできない。もちろん、[± telic] [± bounded] という概念はそれぞれ独立して必要である。内木場（2004: 103-104）が述べているように前者は動詞句に対してのみ適用される概念であり、後者は時間的副詞、時制によって時間的境界に達している場合に適用される。

3) 本稿では、事象に代えて事態という術語を以下の部分で採用する。

参考文献

- 荒木一雄・小野経男・中野弘三．1977.『助動詞』（現代の英文法第9巻）．研究社．
- Declerck, R. 1991. *Tense in English*. London and New York: Routledge.
- Depraetere, I. 1995. "On the Necessity of Distinguishing between (Un)boundedness and (A)telicity." *Linguistics and Philosophy* 18, 1-19.
- Heinämäki, O. T. 1978. *Semantics of English Temporal Connectives*. Indiana University Linguistics Club.
- 出水孝典．2001.「until 節内の動詞句のアスペクトと解釈」『英語語法文法研究』第8号，141-155.
- 出水孝典．2002.「until 節内の動詞句の進行形と状態性」『六甲英語学研究』第5号，53-71.
- 出水孝典．2003.「until 節内の位置・姿勢を表わす動詞句」『六甲英語学研究』第6号，83-98.
- 今井邦彦・中島平三．1978.『文(II)』（現代の英文法第5巻）．研究社．
- 衣笠忠司．2005.「until 節における進行形について」『英語語法文法研究』第12号，95-109.
- Kittredge, R. I. 1969. "Tense, Aspect, and Conjunction: Some Inter-Relations for English." Ph. D. dissertation, University of Pennsylvania. University Microfilms, Inc.
- Rappaport Hovav, M. and B. Levin. 1998. "Building Verb Meanings" In M. Butt and W. Geuder eds., *The Projection of Arguments: Lexical and Compositional Factors*. 97-134. CSLI Publications.
- Smith, C. S. 1997. *The Parameter of Aspect* (Second Edition). Kluwer Academic Publishers.
- 内木場努．2004.『「こだわり」の英語語法研究』．開拓社．
- Vendler, Z. 1967. *Linguistics in Philosophy*. Ithaca: Cornell University Press.